

高速電力線通信推進協議会 参加報告書
兼 第4回 高速電力線通信システムとEMC調査専門委員会 議事録

1. 日時:平成18年6月27日(火) 14:00～
2. 場所:電波産業会 第4会議室
3. 出席者(敬称略、調査委員会委員のみ記載)

徳田(委員長、武蔵工業大学)
森田(三菱電機)
徳丸(住友電工、弘津委員代理)
小川(東京電力)
高嶋(関西電力)
牧(幹事、松下電器)

4. 議 事

「高速電力線搬送通信設備に係わる許容値及び測定法」について

(1)情報通信審議会(CISPR 委員会)報告書案についての検討

- ・ 5月22日のPLC小委員会で最終報告書案が出された。
- ・ 小委員会有志グループによる実験結果をうけ、2M - 15MHzを 30dBuA、15M - 30MHzを 20dBuA としたいという案となっている。
- ・ 30dBuA の見直しは、DSLにも波及する。全体が変わるならPLCも仕方ないが、PLCだけ変わるのをおかしい。一回の測定データのみで決めるのもおかしい。
- ・ この実験は距離を5mでやっており、10mや30mに換算しないのはおかしい。
- ・ 総務省研究会では田園地域や商業地域でやっていたものを、今回は住宅地域のみというのをおかしい。

(2)6月5日 第20回 CISPR 委員会およびPLC 小委員会にてPLC 許容値に関する最終報告書が決議された。許容値は、下記のとおり。

- ・2MHz～30MHz 以外(通信帯域外):全てのパラメータは VCCI 準拠
- ・2MHz～15MHz:コモンモード電流 30dBuA(LCL16dB の ISN 使用)
- ・15MHz～30MHz:コモンモード電流 20dBuA(LCL16dB の ISN 使用)
- ・筐体輻射の測定は VCCI 準拠とし、30MHz 以下は測定しない
- ・ PLC-JおよびCIAJなど推進する業界団体は、この許容値に対して反論したが、無線保護の観点から、外壁から5m地点であっても周辺雑音を超えてはならないとして、この許容値が最終結論となった。
- ・ CISPR 委員会におけるPLCの審議は終了し、この報告書が6月29日開催予定の情報通信審議会技術分科会に提出され、総務省へ答申される見込み。

次回の予定
未定

以 上